

実践報告資料

研究テーマ 『いじめを生まない土壌づくり～自己肯定感を育む指導の充実と違いを認め合える人権感覚の育成～ 』

研究内容 【 (1)、(2)、(3)、(4) 】 ※重点的に取り組む内容に○を入れる。

学校名 (川西市立川西北小学校)

ア 人権教育としてのねらい

偏見や差別、いじめを許さず、たくましく生き抜く強さと温かさを持った子どもの育成をめざし、自己肯定感や有用感を育み、生活意識を高め、仲間意識を強める。

イ 研究の概要

児童の実態に基づき、学級集団や学年集団の「なかまづくり」を中心に、「いじめ防止」「自己肯定感・有用感を高める」「違いを認め合う」などの取り組みを、1年から6年まで継続性を考慮しながら人権学習カリキュラムの作成を行う。

また、児童の主体的な活動の場を設定し、特別活動や各教科において教師の発信だけでなく、児童の考えや工夫が発揮できることで、自ら学ぼうとする児童の育成を図る。

さらに、学校が「人権を大事にしよう」と取り組んでいることを、学校・学級だよりやホームページ等を使って保護者や地域に発信していくことで家庭や地域との連携強化を進めていく。

領域	教科(国語・算数)	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	全教員	全担任	全担任	外部講師
実施日	年間	11月7日	5月・11月・2月	2月予定
取組名	いちごタイム(漢字) たけのこタイム(計算)	人権教育参観・懇談	QUアンケート調査 いじめアンケート実施	非行防止教室
目標	基礎・基本の学力保障を目指し、漢字や計算力の確かな定着を図り、学習成果を自己肯定感の育成につなげる。	一人ひとりを大切に する集団の中で、差別 やいじめをゆるさない人 権意識を育てる。	児童の生活や学級集 団の状態を把握し、一 人ひとりを尊重し、いじ めのない、どの子にも居 場所のある学級をつく る。	インターネットの危険性 を学び、自分の人権や 他の人の人権を大切に する態度を育てる。
資料名	漢字プリント・ドリル 計算プリント・ドリル	ほほえみ・いのち (県・市副読本)	ハイパーQUアンケート いじめアンケート	
指導内容 や指導方 法の工夫 等	全学年を通じて朝学 習いちごタイム 15 分間 (漢字学習)、昼学習た けのこタイム 10 分間(計 算学習)を毎日行う。 既習内容を反復学習 や時間を計ったりして個 人の学習めあてが達成 できるようにプリント学 習や小テストを実施す る。習熟度による個別 指導を実施し、学習の 達成感を高めることに 配慮する。	全学級一斉の人権教 育授業参観を実施し、 授業後に保護者との 人権懇談会を実施し人 権啓発を行う。 1年から6年まで、「な かまづくり」を中心と した教材やワークショップ を取り入れ、「違いを認 め合う」「いじめ防止」 につながる人権学習を 一斉に実施する。事前・ 事後に校内研修を実施 して、人権教育カリキ ュラム作成の検討を行 う。	1 学期QUアンケート を実施し、学校生活意 欲や学級満足度、ソー シャルスキルについて 児童個人・学級の状態 を調査する。 2 学期、3 学期は、生 活・いじめアンケート を実施し、アンケート結 果をもとに、個別指導 や学級、学年指導を行 い、子どもたちの人権 を保障するとともに、 子ども自らが、人権 の大切さに気付く学 習へつなげる。	インターネットやスマ ホ、SNSなどこれから 身近に使えるようになる なかで、初めに危険性 を知ること、適切な使 用ができるようにする。 外部講師で現役の警 察官の方から、ネット やスマホ等の危険性や 現状を聞き、人権侵害 やいじめにつながるこ とに気付かせる。